



私たちのシユウカツ

安城特別

支援学校の1年

### 6月・作業学習 ①

安城特別支援学校高等部 が十一日、校内で作業学習三年の職業コースの二十人の一環である「サービ



清掃の際の注意点などについて話す生徒ら。いずれも安城市の安城特別支援学校で

# 実際の仕事 授業で体験

の授業でフロア清掃に取り組んでいた。

まずは三年担任の黒岩愛里教諭が「モップを壁に立て掛けていた人がいたけど、倒れると危ないですよ。ね。どうすればいいと思う？」と問い掛け、注意事項をおさらい。五つのグループに分かれ、ほうきとちりとり、モップを使って掃除した。



廊下を掃除する生徒ら

二年次に道具の使い方や清掃の手順は習得済みとあって、作業はスムーズに進んでいた。フロアマットを持ち上げるのに苦労する友人に「手伝うよ」と声を掛けたら、「次は向こうを掃除してくるね」と分担したり、協力し合う姿が印象的だ。

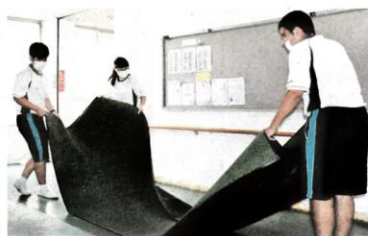
「指導するのは、仕事としての清掃。最終的に、指示書を見て必要な道具を把握し、自分の判断で作業を進められるようにする」と進路指導主事の説田智洋教諭。廊下を通る人の邪魔にならないように動くことな

ど、清掃中の細かな心遣いも学ぶ。窓ふきや業務用掃除機を使った掃除も体験。黒岩教諭は「必要なことはメモを取る、分かなければ質問する。それができるように、習熟度に合わせて話し方や指示の出し方も変えている」と言う。

「サービス」は六年前に取り入れた授業だ。二〇〇八年のリーマン・ショックなどをきっかけに、製造業など中心だった進路が、清掃などのサービ分野に広がってきたのがきっかけ。昨年

度の卒業生の就職先は、製造業とサービ業がほぼ半々だった。「実際の仕事内容の一部を授業で体験させる意義は大きい」と説田教諭。例えば業務用掃除機自体にはさほど重量はないが、三十分も使い続けると腕が痛くなってしまう。「継続して作業するにはもっと体力をつけなきゃいけない、という生徒自身の気付きにつながる」

事務作業にも取り組む。書類をどじる、はさみやカッターナイフで用紙を切る。六月から八月上旬までの間に、生徒たちは就職への大きな関門といえる企業での実習に挑む。「実力を最大限に発揮させたい。実習の前に作業学習が進められて良かった」。臨時休校が明け、説田教諭らは胸をなで下ろした。



協力してマットを運ぶ生徒たち

（四方さつき）

◇ 次回は、実習で生徒を受け入れる企業側の動きを取材します。